

第5章 重点的に進める取組

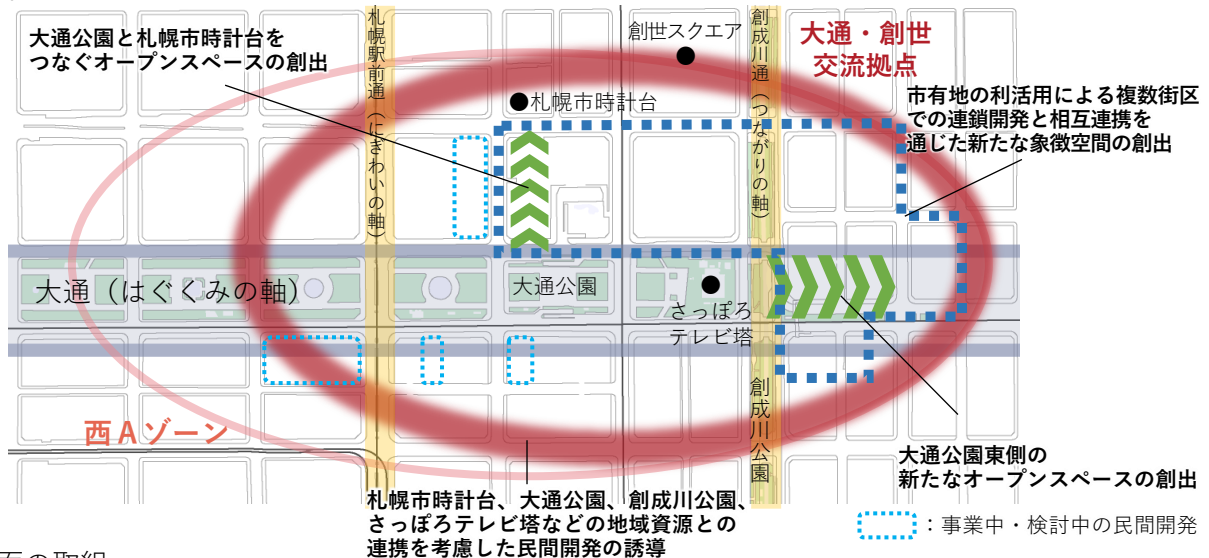
この章では、第2次都心まちづくり計画で定めるはぐくみの軸の考え方や第2次まちづくり戦略ビジョンにおける都市空間形成に関する考え方、本方針策定にあたり市民の意見の把握を目的として実施したオープンハウス※において、将来像のうち「象徴性」「居心地が良く歩きたくなるまち」「みどり」に多くの共感を得たことなどを踏まえ、「重点的に推進する取組」を設定します。

※オープンハウス：78ページ参照。

1) 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出

はぐくみの軸は、都心の南北を貫く都心まちづくりの骨格軸である「にぎわいの軸（札幌駅前通）」及び「つながりの軸（創成川通）」と交差しています。第2次都心まちづくり計画では、これらの交点周辺を「大通・創世交流拠点※」として位置付け、「都心における象徴的な都市文化拠点の創出」や「骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化」などを目指すこととしています。

「大通・創世交流拠点」は「西Aゾーン」に含まれおり、当該ゾーンでは民間主体の開発が進んでいます。さらに、札幌市時計台、大通公園、創成川公園、さっぽろテレビ塔などの地域資源が集積し、札幌市役所本庁舎等が立地する市有地も含まれています。今後も、これらの周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進していきます。



当面の取組

- 市有地の利活用による複数街区での連鎖開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出
- 札幌市時計台、大通公園、創成川公園、さっぽろテレビ塔などの地域資源との連携を考慮した民間開発の誘導
- 大通公園東側の新たなオープンスペースの創出
- 大通公園と札幌市時計台をつなぐオープンスペースの創出

※ 大通・創世交流拠点：第2次都心まちづくり計画で定める交流拠点（新たな活動や交流を生み出し都心全体のまちづくりを先導する拠点）の一つ。「質の高い文化的なライフスタイルを支える機能・空間の形成」を展開指針とし、「都心における象徴的な都市文化拠点の創出」「札幌の顔となる大通を基軸とした多様な活動、交流の創出」「骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化」などを旨とする。



札幌市時計台



大通公園西3丁目・さっぽろテレビ塔



札幌市役所本庁舎
上記写真全て <資料>札幌市

2) 大通公園を中心とした東西方向へのまちづくりの波及

大通公園の西端を含む西Cゾーンは、強化の考え方として「都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ」ことを掲げていますが、当該ゾーンのさらに西側にも北海道知事公館や北海道立近代美術館といった貴重なみどりのかたまりが見られます。そのため、はぐくみの軸のまちづくりの効果は「軸」の外側にも波及していく可能性があります。

一方、創成川より東側では、創成川より西側の大通公園から続くオープンスペースが創成川公園で途切れていることなどから、西側の活力を東ゾーンへつなげ、さらには豊平川まで引き込んでいくことが課題となっています。

はぐくみの軸の強化を通じ、大通公園を中心として東西方向へまちづくりの動きを波及させていくことを目指します。



当面の取組

- 大通公園西周辺エリア※のまちづくりガイドラインの策定
- 地域特性を踏まえたさっぽろ芸術文化の館跡地の利活用の検討
- 創成川より西側のにぎわいを東側まで波及させる連続性ある空間の形成
- 東4丁目通の整備に合わせた南北の回遊性の向上

※ 大通公園西周辺エリア：第2次都心まちづくり計画上の都心まちづくりのためのターゲット・エリアの一つ。



北海道知事公館



北海道立近代美術館



東4丁目通の回遊性向上のための
実証実験の様子

上記写真全て <資料>札幌市

3) 道路空間の利活用の検討

近年、地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々による交流を促進させることが重要であるといった観点から、「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」が注目されており、札幌市の最上位計画である第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおいても、「居心地が良く歩きやすく楽しい、多様な活動ができる・滞留したくなる空間形成の推進」が掲げられています。

また、「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」を実現していくための手法の一つとして、国内外において道路空間の利活用が進められています。

一方、現在の大通公園と沿道は、空間の形成や利活用に係る一体感が欠けているという課題があります。その原因としては、大通公園内の活動を沿道側の建物に取り込むといった機能的な連続性がないほか、駐輪・駐車車両や公園内トイレ背面の露出などにより景観が損なわれていることなどが挙げられます。

これらの「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」や「大通公園と沿道の一体感の向上」を進めていくため、道路空間の利活用を検討していきます。検討にあたっては、必要な調査を行うほか、市民・企業・行政などの協働で実証実験などを実施し、課題や効果などを慎重に検証しながら進めます。

当面の取組

- ・ 市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施
- ・ 実証実験を踏まえた施策の検討、推進



道路空間を活用した実証実験の様子



道路空間を活用した実証実験の様子
上記写真全て <資料>札幌市

4) 地域の取組の連鎖

現在はぐくみの軸では、地権者が中心となったまちづくりの勉強会や、まちづくり団体が進めるエリアマネジメント活動など、地域の特性を活かしながら地域価値を向上させていく取組が進められています。今後はぐくみの軸の将来像を実現していくためには、まちづくりに関わる市民・企業・行政などが本方針の理念や将来像を共有し、それぞれの取組を進めていくことが重要です。

札幌市は、本章で掲げる「重点的に進める取組」をはじめ、将来像実現のための取組を主体的かつ積極的に推進していきます。また、市民・企業などに対し本方針の内容をご説明し、将来像を実現していくための方策について議論を重ね、新たな地域の取組の醸成や、取組の更なる深化を図っていきます。

そして、地域主体の取組の間で相互に考え方などの連携・調整を図ることで、はぐくみの軸全体で一体感のある取組を連鎖的に展開していきます。

当面の取組

- 地域主体のまちづくりの勉強会などの支援
- 地区ごとのまちづくりルール※の策定に向けた誘導、調整
- 地区ごとのまちづくりルールなどを踏まえた都市計画制度の活用
- 本方針に沿った施策の検討、推進

※ 地区ごとのまちづくりルール：札幌市が定めたエリアマネジメントを念頭に置いたまちづくりルールなど

■ 取組の連鎖イメージ

